

第 12 回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成 30 年 6 月 6 日（水） 10：00～11：50	場 所	東海村役場 行政棟 5 階 原子力視察研修室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，荒木田委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，鈴木（さ）委員，鈴木（千），委員川崎（道）委員 事務局／企画総務部 企画経営課 佐藤課長，石井課長補佐，松崎係長，藤田主事，照沼主事 建設部 都市整備課 河西課長，高橋課長補佐，横山係長，浅野主任，大内主任 欠 席／久賀委員 (◎：委員長，○：副委員長)		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課佐藤課長）

2 小原委員長あいさつ

本委員会で検討している計画は、今年度完成させることを予定しています。新しい大きな計画で、しかも、国体と絡めなくてはいけないため、時間軸の考えが様々で難しい部分もあるかもしれません。特に、私が強調したいのは、本委員会として大枠を作った「行ってみたい・住んでみたい・働いてみたい“大空の郷”村松地区」「温故知新“自然・科学・歴史”を体験できる・楽しめる・つながる村松地区」というところです。順位付けはしていませんが、一般的に、「行ってみたい・住んでみたい・働いてみたい」と「体験できる・楽しめる・つながる」の中では、「住んでみたい・働いてみたい」の方が難易度が上がるため、昨年度は「行ってみたい・楽しめる・つながる」といった部分を中心に計画を作ってきました。今年度は一歩進み、長い時間かかるかもしれませんが、「住んでみたい・働いてみたい」の部分に、みなさんからの意見がどうつながっていくかという点について、さらに意識して計画を作っていただければと思います。

村長からも「できることから」と聞いています。現時点でできることもたくさんありますが、もう少し形を整えることが必要かと思っています。また、多くの部署を横断する取組みが多いので、事務局には調整等にご尽力いただいているかと思いますが、今年度も引き続き、よろしく願いいたします。

3 議事

(1) 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画中間報告（案）について

※照沼主事より資料 1 について説明（省略）

- （仮称）はいつとれるのか。（川亦委員）
- ➔ 計画が策定されるときだ。現在の名称に問題がなければ、このままと考えている。（照沼主事）
- 最終的には冊子等になるのか。（川亦委員）
- ➔ 文字で残るように、冊子にしたい。また、一般の方も読みやすいように、見開き 1 枚程度の概要版も作成したいと考えている。（照沼主事）
- 本計画において、道の駅構想のようなものが含まれていないが、検討できないのか。（川崎敏委員）
- ➔ 道の駅については、例えば、8 頁の「滞留施設の整備」のような表現に含まれる。ただ、「滞留施設」イコール「道の駅」が適しているのか、運営面等を含め検討する必要がある。（佐藤課

長)

- 計画実行にあたっての踏み込みが甘いと感じる。できることから行うことは理解できるが、夢のある計画からかけ離れてしまう。(井坂副委員長)
- 以前に、「阿漕ヶ浦周辺整備構想」の中でパース図が示された。本計画については、「阿漕ヶ浦周辺整備構想」を包含する形で議論してきたが、パース図と比較すると、取組みが進んでいないと感じられるかもしれない。村としても、本計画を進めるにあたって、推進体制を組んで実効性を保つことが重要だと考えている。(佐藤課長)
- 村民への啓発をしっかりと行ってほしい。また、4頁の地域資源に水戸八景を含めてほしい。(川崎道委員)
- 1頁3段落目、「歴史や自然、伝統、文化など地域固有の資源を生かしながら…」とあるが、コンセプトの「自然・歴史・科学」と整合性を図った方がいい。(坪委員)
- 5頁下部、「…また、どのように財源を確保していくかも課題です。」とあるが、また書きではなく課題のまとめのようなものがあつた方がいい。(坪委員)
- 計画期間は10年間とあつたが、予算面の検討も必要だ。「年間3億円・5億円投入する」等と入れないと、絵に描いた餅だ。イメージだけではやる気を感じられない。(川崎敏委員)
- ➔ 資料2の取組みイメージに短期・中期・長期とある。たとえば、「幼保跡地エリアは、短期で何年で何を行う」と見えれば、納得できる。活動の方針に紐付け、具体の取組みを示した方がいいのではないか。(川亦委員)
- 駐車場について、今までなかったものを造るわけではない。国道拡幅に伴い減少する分の駐車場の確保について記載いただきたい。(原委員)
- ➔ 駐車場については、資料1、7頁、大神宮・虚空蔵堂エリアの【現状と課題】で触れたいと考えている。また、村松駐車場はゼロになるわけではない。(照沼主事)
- ➔ 都市整備課で4月に駐車場の調査を行った。国道拡幅に伴い、147台中、44台分の駐車場が減少する。村松駐車場内の松を一部伐採したため、再整備を行えば、15台程度は増やせる可能性がある。村としても整備について検討したい。ふれあいトイレ前の駐車場については現状20台中、7台減少する予定だ。(大内技師)
- ➔ パークホテルあづまの西側の小山は崩すことはできないのか。崩せば20台ほど確保でき、国体までに整備できるのではないだろうか。(川崎敏委員)
- ➔ (駐車場整備は)自然保全との兼ね合いもあるだろう。(荒木田委員)
- ➔ 駐車場が単に減るということだけではなく、総数を調べて駐車場の確保予定を示していただきたい。幼保跡地から歩いて来る人はゼロに近いのではないか。(川崎敏委員)
- 阿漕ヶ浦公園周辺での駐車場については、阿漕ヶ浦クラブ跡地や村松駐車場を含め、全体で整備したいと考えている。(河西課長)
- ➔ 阿漕ヶ浦公園と大神宮・虚空蔵堂の駐車場は別だろう。「削られた分の駐車場分は確保してほしい」とずっと主張している。(川崎敏委員)
- ➔ 駐車場を造ることはあくまで活性化のための手段だ。本委員会の目的は、駐車場を造った先に何を描くのかということなので、本題からずれてしまっているのではないだろうか。(照沼主事)
- ➔ 大神宮や虚空蔵堂の客足が離れてしまえば、活性化にならない。今、必要なことが駐車場の確保ということではないだろうか。(川亦委員)
- ➔ 逆に、あの場所に1,000台の駐車場を造れば、間違いなく今の10倍の客が来るだろう。そのぐらいのものが必要だ。(川崎敏委員)

- ➔ 大神宮と虚空蔵堂が衰退すれば、村松は衰退する。国道拡幅により減少する分をゼロベースに戻す必要がある。(原委員)
- ➔ 村松地区は確かに、人口減少が進んでいる。それに対し、役場が土地を購入するわけではないだろうが、たとえば、「町並みを統一するために、整地して家並みを揃えて、裏には駐車場がある…」といった議論はできるのではないだろうか。(荒木田委員)
- ➔ みんなで共通の絵(将来像)を描いて、そのために、一人ひとり何ができるかについて考えてきたい。(照沼主事)
- ➔ 歴史資源等を活用してにぎわいをもたせるための取組みとして、計画書の具体的な取組みに駐車場の確保を盛り込むかどうか検討したい。(佐藤課長)
- ➔ 公平性の点は問題ないのか。(荒木田委員)
- ➔ 仰るとおり、様々な住民の考えがある中で、大神宮・虚空蔵堂に限定して駐車場を確保すると記載することで誤解を生みかねない。どのように入れ込むかについては、検討させていただきたい。(佐藤課長)
- 踏み込んだものがないと、イメージで終わってしまうのではないか。具体的に言うと、阿漕ヶ浦周辺の土地や阿漕ヶ浦クラブ跡地やテニスコート等、行政以外の所有地まで計画へ落とし込むのか。(井坂副委員長)
- ➔ 現状、国体へ向け、阿漕ヶ浦公園のホッケー場の整備が終了した。阿漕ヶ浦の周辺については、今年度、景観整備を進める予定だ。9月のプレ国体にあたっては、阿漕ヶ浦クラブ跡地とテニスコートを暫定的に駐車場として利用できるように進めている。(河西課長)
- ➔ 今年度策定する計画にはどこまで盛り込むのか。(井坂副委員長)
- ➔ 具体的には踏み込んでいないが、6頁の方向性に紐付く取組みを議論の上、盛り込むこととなる。当然、「あれほどの景観がある一方で、阿漕ヶ浦クラブ跡地はあの状態のままでいいのか」という意見もある。ただ、JAEAの土地なので、JAEAの意向も踏まえながら計画に落とし込む必要がある。(佐藤課長)
- ➔ 本委員会で真砂山の辺りをこのように活用したいと描けば、JAEAとしても、できる・できないの反応ができる。実現が何十年後になるかは分からないが、大神宮・虚空蔵堂は数百年後も存在する。こちらから動かないと、JAEAも動かないだろう。(川崎敏委員)
- ➔ 真砂寮については、「将来的に使い続けることができるか」という問題があり、検討は始まっている。ただ、本計画が委員会の計画なのか、村の計画になるのか。委員会としては道の駅等の要望を出せるだろうが、どう実現するかがある。そこを描けるかどうかは判断していただく必要がある。(藤田委員)
- みなさんの意見を踏まえて、申し上げたい。外部の視点を考慮すると、①このような計画を作る際には、問題の所在がいかに明らかになるかで、説得力が増す。総合計画等を作るときには図表が出る。本計画ならば、村松地区周辺地域における人口構成・産業構造・通勤通学流動など出てくる。それを活用して、相対的に地域として弱体化する…と示しながら話を進めるが、村松地区周辺地域というスケールで統計データの有効性があるかは注意が必要だ。②一般的な地方における問題と村松における問題(駐車場や拡幅等)をどう表現するか。③計画を作るためにはイメージが必要だ。中心性を取り戻すことと、村松への近づきやすさを高めるために、軸を作った。その軸(図)の取扱いを御検討いただきたい。④15頁、計画の推進にあたってには、村が取り組むことが上位に来るのか、住民の取組みが上位にくるのか。専門化が見ると、どこに力を入れているか見えてくる。対外的な部分も含めて御検討いただきたい。⑤計画の簡易版という話があったが、村松のCMになる形で作っていただきたい。エリアプロモーション

を兼ねるといい。それが、具体化の話に繋がるのかもしれない。(小原委員長)

※照沼主事より資料2について説明(省略)

- 資料2にはイメージと記載がある。具体的な取組みはいつごろ提示されるのか。(川亦委員)
- ➔ 既存の取組みについては次回委員会時に一覧にして示せるようにしたい。(照沼主事)
- 資料2に書いてあることについては、我々が議論してきたことが整理されるはずではないのか。それを庁内で議論することとなり、説明と逆ではないだろうか。(坪委員)
- ➔ 委員会意見を担当課に繋げることはできるが、必ずしも、全ての取組みが実現できるわけではない。そこを調整した上で記載することとなる。(照沼主事)
- 資料2について、「推進主体」とするか、「推進体制」とするのがいいのか。正確性と分かりやすさを考慮して表現を御検討いただきたい。(小原委員長)
- 資料1と資料2で「具体的な取組みが重複する」という懸念があるかと思うが、全ての取組みを計画書(資料1)に記載することはできない。計画書に載っているから(時代と合わなくなった取組みまで)やらなければいけないといった事態にならないように、計画書には細かな取組みを書き過ぎないようにしたい。(照沼主事)
- ➔ 一番大事なのは、方針の下で列挙される空欄の部分(具体的な取組内容)だろう。資料2に基づいて推進体制でPDCAを回すとすれば、記載に縛られないと謳うこととなり、取組みも随時変化すると認識した。ただ、資料2は、別の資料として出てくる。資料2は段階的に追うものとなるが、資料1に紐付いていないといけない。(安尾委員)
- ➔ 資料2はアクションプランのような形で整理したいと考えている。資料1の方針に紐付くこととなる。(佐藤課長)
- ➔ 具体的な取組内容に何が書かれるのかがわかればイメージできる。これだけ見た人は分からない。(安尾委員)
- ➔ 計画書(資料1)の具体的な取組みについての文言は整理しきれていない。ただ、仰るとおり、計画書の中で「進行管理はアクションプランで行う」と謳う必要がある。(照沼主事)
- ➔ そうであれば、具体的な取組みには、ぶれないような書きぶりが必要だ。アクションプランについても(計画書の)進行管理で触れ、ひとつの区切りとして10年間をターゲットにする…といった流れが適しているかと思う。(安尾委員)
- ➔ そもそも、資料2は内部資料とすれば十分なのではないか。(荒木田委員)
- パース図はいつ頃載せるのか。(川亦委員)
- ➔ 写真資料については次回委員会で示したいが、パース図をいつ頃示せるかは未定だ。決まり次第、委員会で御説明する。(照沼主事)
- 計画にどこまで落とし込むか分からない。いつからアクションを起こしていくのか。たとえば、JAEAの所有地について、計画へ落とし込むのか。(井坂副委員長)
- ➔ あくまでJAEAの土地だ。たとえば、真砂寮地の活用といった意見は多数あったが、そこに直接絵を描くような計画ができるのかについては、JAEAの意向もある。具体的にどこまで入れ込めるかは調整が必要だ。(佐藤課長)
- ➔ 住民と役所でその辺りの意識の違いがある。担い手となる人材を育てると言っても、地元からすると、現実的に難しい。地区から外に出て行く人もいる。たしかに、ホッケー場の整備等、話が進んでいるところもある。一度、村長と話して村民が見える部分に着手してはどうか。(荒木田委員)
- ➔ 理想は、土地の確約を得て絵を描きたいところだ。しかし、議会や村松地区以外の住民理解が

必要だ。そこの表現には配慮する必要がある。(佐藤課長)

- 本計画は10年を計画期間とするとあるが、資料2には10年以上と書いてある。以上を含むならば、軸を書かなくてはいけない。課題の整理や利害関係が見えると協力しやすい。(坏委員)
- ➔ 坏委員が仰るとおり、具体的な課題が分からないといけない。行政だけでできる計画ではない。(井坂副委員長)
- ➔ 40年間程度の計画を立てれば、絵を描けるはずだ。阿漕ヶ浦クラブ跡地等、震災後、整備されないまま、国体を迎える。整備すらできないのが現実だ。50年後にこんなにきれいなものができたと、次の世代に託するのがこの計画ではないか。10年間でこの計画は達成できないだろう。(川崎敏委員)
- ➔ 初心に戻って、活性化とはどうするのか。やはり、大神宮・虚空蔵堂の歴史的価値を活かすことが必要だ。それを活かすためにはどうするか。今は車社会だが、(村松地区には)駐車場がない。資料1の7頁の図をみると、一番広いところに真砂寮がある。この土地を有効活用してはどうかとは誰もが考える。それを本委員会の集約としてはどうか。桜をPRし、橋をかけて、人が集まれば、民間も店を出し、活性化になる。そう考えると、やはり、駐車場が必要だろう。(川崎道委員)
- 今まで話し合った内容を資料2に落としこみ、どこの部署が関係するか示し、課題(所管・予算・法律等)を洗い出せばいいのではないだろうか。関係部署の方に説明する等、そろそろ話し合った内容を提示していただきたい。できるかできないか分からないが、あくまで、「問題点を洗い出すためのものである」と書けば作れるのではないか。(鈴木さ委員)
- ➔ 賛成だ。その方が課題や協力関係も見えやすく、何をすればいいか分かりやすくなるだろう。(坏委員)
- ➔ 地権者等以外の方が賛成しても意味がない。村長としても優先順位があるだろう。地域の意向を聞いて、村長の意向と合致すれば、具体化していく。まずは阿漕ヶ浦公園だろう。取組みを見せるのは立派だが、専門家でない人の意見だけでは収集つかない。(荒木田委員)
- ➔ 委員会の当初は、白紙の状態でも話し合っただけと村長から話があった。もう一度、そのあたりについて、村長から話してもらった方がいいのではないか。(鈴木さ委員)
- 2019年が国体だが、2018年度に取得しようとしている土地はあるのか。計画あつての土地取得なのか、国体に絡めて土地を取得するのか。(川亦委員)
- 土地取得については、理由付けが必要だ。基づく計画があつて、相応しい土地はどこか、面積や費用面等での土地の選定は次の段階での検討となるので、計画上で特定することはできない。使い道が分からなまま、先行して取得することは基本的にはできない。阿漕ヶ浦クラブ跡地は、国体の期間が限定されていて、必要だから借地した。取得となると、目的が必要だ。計画上でこういった目的で活性化を図ると、大前提があつて、その上でどこが適しているか考える。(佐藤課長)
- 来年の国体時だが、駐車場の確保は進んでいるのか。(川崎敏委員)
- ➔ 現時点では必要台数は把握しており、それほど多くはない見込みだ。プレ大会の様子は見るが、基本的には阿漕ヶ浦クラブ跡地を借地するのみとなる。(河西課長)

(2) その他(事務局より)

- 阿漕ヶ浦クラブ跡地について、2018年9月22日(土)~26日(水)の全日本社会人ホッケー選手権大会時に、国体の実行委員会が駐車場として借りるための調整を行っている。
- ➔ 国道と接続する道を整備する予定はないのか。(川崎敏委員)

- ➔ 大宮土木で国道 245 号拡幅ということで、取り付け道路を整備してもらう予定だ。(河西課長)
- 幼保跡地については、測量と駐車場の設計等について、5月に委託業務を発注し、11月頃を目途に計画を策定する予定だ。(横山係長)
- ➔ 委託とは、工事まで含むのか。(川崎敏委員)
- ➔ 設計のみだ。(河西課長)
- 次回委員会については、8月上旬を予定。日程調整表を7月上旬に郵送する。(照沼主事)

4 閉会 (佐藤企画経営課長)

(以上)